

## ネパール住民の歯周病罹患率並びに歯周病原細菌に関する研究

野村 慶雄  
溝部 潤子  
福田 昌代  
白銀 千枝  
高柴 正悟  
工藤千恵子  
小野 一男

Shiba Kumar Rai

ネパール住民の生活習慣並びに口腔環境に関する一連の調査において、今回はカトマンズ・シバクチ地区近隣住民の歯周病罹患状況、口腔衛生習慣、歯周病原細菌に関して調査し、ネパール住民の歯周病と生活習慣、歯周病原細菌 (*Porphyromonas gingivalis* : Pg) との関連を解析することを目的とした。また、疫学調査における血清抗体価による歯周病検査の有効性を検討した。

### 〔対象および方法〕

カトマンズ・シバクチ地区近隣の住民220名に対して、歯周組織検査を含む歯科検診と生活習慣に関するアンケート調査を実施した。

採血が可能であった147名（男性35名、女性112名、年齢22～80歳）を解析対象者とした。歯周組織検査は、WHO の CPI プローブによる地域歯周疾患指数 (CPI : Community Periodontal Index) 測定と唾液潜血反応検査 (ペリオスクリーン「サンスター」) によって行った。歯周病原細菌検査は、歯周病原細菌の標準株である PgFDC381 の超音波破碎抽出抗原に対する血清抗体価を ELISA 法 (酵素免疫測定法) で測定した。

### 〔結果および考察〕

#### 1. 歯周病罹患状況

- ① 地域歯周疾患指数：加齢に伴いCPI 0～2 の者が減少し、CPI 3 以上の者が増加する傾向であった。日本の歯科疾患実態調査結果と対比すると、CPI 3 以上の割合はどの年齢においても日本の実態より高く、ネパールにおいては歯周病の重症度が高いことが分った。
- ② 唾液潜血反応：40歳未満では唾液潜血反応は36.6%、40歳以上では67.3%であり、歯周病による出血が加齢と共に増加する傾向がある。

#### 2. 歯周病原細菌に対する血清抗体価

*P. gingivalis* に対する血清 IgG 抗体価は健常者群と歯周病群で比較すると、歯周病群の方が健常者群より有意に高いことが分った。

### 〔結論〕

ネパール住民の歯周病罹患率は、わが国と比較して重症化している。また、集団を対象とした歯周病検査に歯周病原細菌に対する血清抗体価測定は有用である。